

「日本映像民俗学の会」の15年  
(1974~1992)

日本映像民俗学の会

## 牛歩遅々の弁

このパンフレットは「日本映像民俗学の会」が発足して15年を迎えるのを機に、先の第13回総会の決定に基づいて、会の記録資料としてまとめたものです。当会の前史にあたる「映像民俗学を考える会」から1978年の創立総会にはじまり、今日にいたるまで、会員の皆さんとともに歩んできた、会としての活動の概括的記録です。

15年間にわたる会の歩みを振り返ってみますと、長かったようで短かったようです。また、会活動の牛歩遅々たる歩みをも、ひしひと感じました。だが、もともと文化創生と形成の歩みは各人のさまざまな環境と社会とのかかわった、物心両面の固有な生活形態、独自の感性、習俗などが綾をなし、習合し、熟成されていった、屈折した長い歴史的過程のなかに生み出され、受け継がれ、育てられてきたものです。そして、それは生成必滅の人間の命運と共にした、人間の営みの姿と言えるかと思えます。ともあれ文化創生の歩みは一朝一夕に、手品のように生まれるものではない、気の遠くなる果てしない道そのものであると言えます。そんなことを考えると15年間ほどで牛歩遅々などということは当然すぎて、おかしいことでしょう。

とくに、我国の昨今の文化状況は金権万能至上主義一辺倒の時流に狂奔し、その渦中にほとんどの文化活動も巻き込まれ、吸収され埋没されてしまい、体制権力下に画一化され、商品化をあからさまにしています。このような文化状況は本来の内実ある文化活動から離反し、本末転倒した道であり、文化創造活動が衰弱、廃退した世紀末的な時代の到来に他なりません。このことは人間の生の営みに即した、人間の自由な表現とその享受の共有をめざす文化創造活動の一端を、少なくとも担い、進めようとする私たちの会活動にとって、現状況が逆風そのものであり、無数の障害に囲まれ、行く手が阻まれるのも当然だと、私は楽天的に思っています。

それだから、私たちの牛歩遅々たる歩みは初心への執念を会員ともども逆風の中でも、よたよたしながら、ひたすら歩き続けてきた会の成果だとみなしても良いように私は思います。

以上はこのパンフレットを読みながらの私の感想に過ぎないので、自画自賛に落ちるかもしれません。ひょっとすると長年の牛歩遅々の弁解のようにとられるかもしれません。いずれにせよ「牛歩遅々」の会の歩みを率直に自分のなかでかみしめ、マイナスの部分を反省のテコにして、私の今後の行動のプラスに転化していこうと念じています。ところで

会員の皆さんの感想はいかがなものでしょうか。お聞かせ下さい。

最後に一言。パンフレットにリストアップしてあります各会員の作品、その他の参考作品として上映いたしました諸作品を会員の方々が、各々の居住地域や会活動にそった集会などで利用、活用したい希望があれば、下記の各センターに連絡相談してください。可能な限り、作品のお世話をいたします。

東京センター

間宮則夫

京都センター

久保田堅市

東北センター

森田 純 方

1992年8月

野田 真吉

日本映像民俗学の会運営委員会事務局

- 1974.11 ○ 「映像民俗学を考える会」を設立。  
 構成メンバー 野口武徳（成城大学教授） 宮田 登（東京学芸大学  
 助教授） 野田真吉（記録映画作家）北村皆雄（記録映画作家）  
 事務局を成城大学野口研究室に置く。  
 ○ メンバーの手持ち作品の貸し出しをはじめめる。
- 1975.5.21/22/29 ○ 野田真吉の民俗学資料映画の上映会を開く。（会場 杉並区立高円寺  
 会館  
 上映作品 「大磯の左義長」「本牧のお馬流し」「三浦菊名の飴屋踊  
 り」「世附の百万遍念仏・獅子舞」
- 1975.6 ○ 全国の製作プロダクション、都道府県公共団体、個人製作者などに呼  
 びかけて、映像民俗資料のリストアップをはじめめる。（第一次調査）
- 1975.8 ○ 第一次アンケート調査に対して、53箇所より回答が寄せられ、会独  
 自の調査分も含めて、約2000作品の映像民俗資料をリストアッ  
 プ。
- 1976.9.2 ○ 成城大学野口研究室においてシンポジウムを開く。  
 テーマ「映像民俗学—討論・映像民俗学を考える会」について  
 メンバー 野口武徳 宮田登 野田真吉 北村皆雄
- 1977.1 ○ 会報「映像民俗学」No.1を発行  
 ○ パンフレット「映像民俗学—討論・映像民俗学を考える会」発行
- 1977.11.25～27 ○ ゼミナール「映像と民俗学講座」開催  
 会場 大学ゼミナーハウス（八王子市）  
 参加者 54名  
 講師 1「現代民俗学と映像」 野口武徳（成城大学教授）  
 2「祭りのとらえ方—ハレとケの構造」  
 宮田登（筑波大学助教授）  
 3「山村の祭りの記録—新野の雪祭りと遠山の霜月祭りの経験  
 について」 野田真吉（記録映画作家）  
 4「南島の祭り」と記録—イザイホー・ユークイ・アカマタの  
 秘儀」 北村皆雄（記録映画作家）  
 5「映像人類学について」岡正雄（国際人類学民族学連合映像  
 人類学委員会委員長）  
 6「映画と柳田国男—雪国の民俗のころ」  
 三木茂（元三木映画社主宰）  
 ＊三木氏は病気のため欠席
- 上映作品「柳田国男と遠野物語」三木茂  
 「冬の夜の神々の宴」野田真吉  
 「神屋原（カペール）の馬」北村皆雄
- 特別上映（下中記念財団ECアーカイブス所蔵作品）

「白老・アイヌの生活」八田三郎（大正 14 年）  
「アイヌ・ウエボタラ（悪霊払い）」  
N.G.マンロー（昭和 7 年）  
「牛突」新潟県山越村 渋沢敬三（昭和 10 年）  
「深田植」富山県種村 渋沢敬三（昭和 11 年）  
「イタヤザイク」秋田県雲燃村 渋沢敬三（昭和 12 年）

1978.1

- 「日本映像民族学の会」設立について呼びかける
- 資料一呼かけの文一

「日本映像民俗学の会」発足について

生活文化や民俗事象を生きた動態としてとらえることのできる映像は、これからの民俗調査に重要な役割を果たしてゆくのではないかと考える私たちが、映像による民俗学、映像民俗学を標榜するささやかな会をつくったのは、1974 年 11 月のことです。

「映像民俗学を考える会」と名付けられた私たちの会は、映像と民俗学の結び得る方法と理論を模索しながら、その映像民俗学の分野の確立を目指して、少しずつではありますが歩を進めてきました。

大学や地方での映画上映や講演、映像民俗学の方法論への試みとして出された小冊子「映像民俗学—討論・映像と民俗学を考える」昨年の 11 月に二泊三日でもたれた大学セミナーハウスでの「映像と民俗学講座」なども活動の一つにあげられます。

その他、民俗学の研究資料となりうる映画・TV フィルムの全国調査によるリストアップ、民俗記録映画製作の試みなど、継続中のものもいくつかあります。

しかし、いま私たちは活動のさなかで手を携え合った人々、日本の各地に広がりつつあるその多くの仲間たちや、まだ出会っていない隠れた賛同者たちと共に、新たな組織をつくること、これからの映像民俗学の発展のために必要なことであると思うにいたっています。

時間のなかに消えてゆく一回性の出会いを、光と影の生きた像として再現できる〈映像〉を媒介にして、日本の民俗事象にかかわろうとする者たちの新たな集り「日本映像民俗学の会」を設立することで、私たちの活動をさらに飛躍させたものにしてゆきたいと考えています。

この会は、誰に対しても開かれた組織です。今まで映像にかかわることのなかった人でも、民俗学についての専門家でなくてもかまいません。これから映像と民俗学に関心を向けようとする人々の入会を歓迎いたします。

映像民俗学の確立と研究をめざすもの、あるいは 8 ミリでも 16 ミリでもビデオでもよい、カメラを片手に日本の民俗を記録し、集積してゆく運動体としての「日本映像民俗学の会」を考えています。

今春の四月発足を予定しておりますので、皆様の参加を呼びかけます。

1978 年 1 月

「日本映像民俗学の会」発起人  
野口武徳（成城大学教授・社会人類学）

宮田 登（筑波大学助教授・民俗学）  
野田真吉（記録映画作家）  
北村皆雄（記録映画作家）

1978.7.20

- 「映像民俗学」第2号発行  
\* 映像民俗学の調査方法について 宮田登  
\* オーストラリアにおける民俗学的フィルム製作と日本回想 その私的見解 スールン・ホアス

1978.8.16

- 「日本映像民俗学の会」第1回創立総会開く  
会場 伊豆神社御厨（長野県阿南町新野）  
会員 総員 41名 出席者 17名 委任状 17名  
総会議事  
①経過報告 北村皆雄  
②会則説明 野田真吉  
③活動方針 野口武徳  
■全員が何らかの形で参加できる会を作る  
■作品リストの整理・出版を行う  
■研究会活動、会報発行を継続して行う  
■映像製作による共同研究を行う（共同テーマ設定、第一回は「あいさつ」とする）  
■作品、講師の派遣を行う  
■会員相互交流の場を設定する  
④役員を選出  
運営委員 野口武徳 宮田登 野田真吉 北村皆雄  
大森康宏 森田純  
監事（会計監査） 岡田一男 岡本慶一  
事務局 野田真吉 北村皆雄 三浦庸子 小川克巳  
大塚正之 野口研究室から1名

「日本映像民俗学の会」会則

- (1) 名称 日本映像民俗学の会  
(2) 目的 会は映像民俗学の確立、その理論と方法の研究、ならびに会員相互の親睦を図る  
(3) 会員 員の目的に賛同し、会費年額 2500 円を全納する  
(4) 事業 会の目的を達成するため、左の活動をする  
a 総会（年度の活動方針の決定及び研究発表）  
b 研究会  
c 会報の発行  
d 映像記録による共同研究  
e 民俗資料映画、講師派遣の斡旋  
f その他必要な事項  
(5) 運営 総会において 6 名の運営委員 2 名の監事を選出し、運営委員は委員会を構成して会務にあたり、監事は会計監査を担当する  
運営委員と監事の任期は 2 年間とする。ただし重任を妨げない  
会則の変更は総会の決議による

(6) 事務所 事務所は  
〒157 東京都世田谷区成城 6-1-20  
成城大学文芸学部野口研究室着付  
日本映像民俗学の会 とする

- 1979.5.13 ○ 東京地区研究会を開く  
宮田登「ケとハシについて」の話を中心に討論を行う  
参加者 18名
- 1979.12.2 ○ 「日本映像民俗学の会」第2回総会を開く  
会場 回転木馬（東京都新宿区）  
会員 45名 参加者 18名 委任状 8名  
総会議事  
①活動報告 野田真吉  
②会員作品上映と討論  
「下町におけるコロッケの研究」大西みつぐ（VTR 20分）  
「静原（京都）79.7」巨純吉（VTR45分）  
「静原（京都）79.11」巨純吉（8mm 15分）  
「お札まき（横浜・戸塚）大塚正之（16mm 6分）  
「下九沢（神奈川）の獅子舞」小川克巳（VTR10分）  
「上棟」小川克巳（8mm 10分）  
「新野（長野県）の門松づくり」野田真吉（16mm 5分）  
「久高島（沖縄）のまつり」北村皆雄（16mm 10分）  
「江戸時代の朝鮮通信使」滝沢林三  
③講演  
「民俗学の今日的課題」 宮田登  
④今年の活動方針 北村皆雄  
■統一テーマ「あいさつ」を共同製作するのはなかなか困難  
■今年は会員の身近な範囲で民俗学的な素材を記録する  
■地域ごとに研究会を開く  
⑤事務所移転の件  
野口武徳がフィールド調査で1年間ボルネオに行くので事務所を  
移転する  
新事務所 〒杉並区成田西 1-2-8 野田方
- 1980.1.20／4.29 ○ 名古屋市在住会員（二村和之、倉本徹、小川克巳）のダットン海峡社  
主催、民俗学研究会を行う  
上映作品「神屋原（カベール）の馬」北村皆雄  
「冬の夜の神々の宴」野田真吉
- 1980.6.29 ○ 東京地区研究会を開く（会場 荻窪ポエム）  
講師 福田アジオ（武蔵大学助教授）  
参加者 17名
- 1980.12.6/7 ○ 「日本映像民俗学の会」第3回総会を開く  
会場 京都府立勤労会館（京都市中京区烏丸通）  
会員 総数 40名 出席者 12名 委任状 16名  
総会議事

- ①開会 久保田堅市
- ②活動報告 野田真吉
- ③来年度活動方針 北村皆雄
  - 第2回総会の活動方針を継続発展させる
  - 各地域の会員を中心に研究会を強化する
  - 会報の定期化、パンフレットの発行を実行する
- ④役員の変更
  - 運営委員 森田純 大森康宏 宮田登  
野口武徳 北村皆雄 野田真吉
  - 監事(会計監査) 岡田一男 久保田堅市
  - 事務局 野田真吉(代表) 北村皆雄 三浦庸子  
小川克巳 大塚正之
- ⑤上映作品
  - 「ニライ渡海の儀礼」北村皆雄(16mm15分)
  - 「静原 1980 秋祭り」巨純吉(8mm30分)
  - 「那智扇祭り」岡田一男(16mm33分)
  - 「お札まき」大塚正之(16mm 18分)
  - 「面掛行列」野田真吉(16mm 11分)
  - 「御柱たて」小川克巳(8mm14分)
  - 「佃島」大西みつぐ(VTR15分)
  - 「エフェスメント」スールン・ホアス(16mm20分)
  - 「ジャパニーズ探訪」スールン・ホアス(16mm15分)
  - 「ジブシー」大森康宏(16mm60分)
- ⑥パネルディスカッション  
問題提起「のっとられた映像」大森康宏
- ⑦閉会 久保田堅市

- 1981.3.1 ○ 東京地区にて研究会を開く  
会場 杉並区立高円寺会館(東京都杉並区高円寺北)  
テーマ「ジブシー」大森康宏作品の上映と討論
- 1981.8 ○ 京都地区にて研究会を開く  
テーマ「ジブシー」大森康宏作品の上映と討論
- 1981.11.15 ○ 「日本映像民俗学の会」第4回総会を開く  
会場 杉並区立高円寺会館(東京都杉並区高円寺北)  
会員 51名 出席者 16名 委任状 18名  
総会議事
  - ①活動報告 野田真吉
  - ②会計報告 大塚正之
  - ③来年度の活動方針 野田真吉
    - 創立5年目を迎えるので総会を兼ねて公開講座を持ちたい
    - 「映像民俗学」第3号をぜひ出版したい
    - 民俗の映像記録を予定している方があれば、会として協力する
  - ⑤上映作品
    - 「出雲の阿国」北村皆雄(VTR23分)
    - 「沖縄久高島のイザイホー」岡田一男(VTR60分)
    - 「黒石寺の蘇民祭」村田宏子(8mm 30分)



「久高島の民俗行事」小川克巳（16mm20分）  
「新野の盆おどり」野田真吉 小川克巳 石寄祐二 大塚正之  
（16mm45分）

「上総堀り」諸岡青人（16mm37分）  
「青ヶ島の巫女の憑霊とまつり」村山道宣（8mm60分）  
総会終了後、懇親会

1982.6.9

- 東京地区研究会を開く（会場 杉並区立高円寺会館）  
上映作品  
「雪祭り」脚本・折口信夫 監督・羽仁進（昭和28年）  
「奥三河の花祭り」西尾善介（昭和29年）  
「山の祭りー遠山地方の霜月祭り」岩佐氏寿（昭和30年）  
討論「柳田国男の映画論と折口信夫の雪祭り」  
司会 大塚正之 北村皆雄

1982.12.11/12

- 「日本映像民俗学の会」第5階総会と、併せて第2回公開講座「映像と民俗学講座」を開く  
会場 戸隠山荘落合（長野県上水内郡戸隠村中社）  
会員 総数49名 出席者 12名 委任状15名  
総会議事  
①活動報告
  - 今年度は研究会の活動が、事務局手薄のために思うように行かなかった
  - 会員諸氏は各々の立場で活発な製作、執筆活動を展開している
  - 会外においても、民俗的な映像が様々なかたちで、いろいろな目的で製作されており、また民俗的な映像作品に接したいという人も増えてきている
  - これは近代的管理画一化社会体制に対する、潜在的欲求不満の消極的リアクション現象である
  - 我々はこれらの現象に対して、映像民俗学の立場から、自らの内的点検と共に、これらの諸作品の現状に即して正当に評価して行かなければならない
- ②会計報告 大塚正之（会計監査 岡田一男 岡本慶一）
- ③82年度活動方針（事務局）
  - 民俗学、文化人類学専攻の学者である牛島 巖氏、小松和彦氏がフィールド調査に映像による記録を取り上げられたのは、今後の映像民俗学の発展に多くの示唆と教訓が提示されている
  - 上映を予定している会員諸氏の作品も、次第に民俗学的な濃度を増している
  - 82年度もこれまでの方針を引き続き押し進め、ほの見えている成果をより確かなものにして行く必要がある
- ④役員の改選 会計監査に杉原正造、緒方宏子を選出
- ⑤会員作品上映  
「ウマレカシーのフェー」小川克巳  
「神と語るーアジアの神秘・今に生きるシャーマンの世界」北村皆雄  
「マユンガナシ」岡田一男  
「ジブシー」大森康宏

- 公開講座「映像と民俗学講座」プログラム
  - 講師 小松和彦（信州大学助教授）  
作品（自作）「いざなぎ流の家祈祷」
  - 講師 牛島巖（筑波大学助教授）  
作品（自作）「下北半島脇野沢村の夏まつり」
  - 特別講演 宮田登（筑波大学教授・会員）  
「戸隠の山岳宗教」  
（本講演は地元の有志との共催で行われ、参加者は200名を数えた）
  - 故・宮本馨太郎 民俗資料映画特別上映  
「台湾高砂族の生活記録」（昭和12年）  
「オロッコ・ギリヤクの生活」（昭和13年）  
「あらわの田植」（昭和37年）
  - 解説 野口武徳（成城大学教授・会員）  
宮本瑞夫（立教女子短期大学助教授）

1984.3.11

- 「日本映像民俗学の会」第6回総会を開く
  - 会場 高井戸地域区民センター（東京都杉並区）
  - 会員 総数51名 参加者12名 委任状18名
  - 総会議事 司会 北村皆雄
  - ①開会 野口武徳
  - ②活動報告 野田真吉
    - 会として集中的な事業活動、研究会活動ができなかった
    - 会活動の停滞について、運営担当として深く反省している
  - ③会計報告 大塚正之（会計監査 杉原正造 緒方宏子）
  - ④84年度の活動方針
    - 各地域で研究例会の活発化を図る
    - 新会員の入会による会組織と会活動の活性化を図る
    - 共同制作テーマ「ハシの食膳」を各自、来年の総会までに事務局に提出する。記録の方法、種類は自由。民俗学の調査要領で資料的なものとして撮影すること
  - ⑤役員の変更
    - 運営委員 野口武徳 宮田登 森田純 大森康宏  
野田真吉 北村皆雄
    - 会計監査 杉原正造 緒方宏子
  - ⑥上映作品
    - 「長龍神事」（三重県多気郡勢和村岸野・八柱神社）  
小川克巳・川上幸子（16mm）
    - 「西浦の田楽」（静岡県磐田郡水窪町西浦）  
大塚正之（スライド60分）
    - 「ヤップ島の貨幣と交換」牛島巖（VTR25分）
    - \*上映前に作者より「ヤップ島の男子集会所の落成式の映像記録をめぐって」の製作報告がある
    - 「タナ・ハウサ族の製鉄技法」大森康宏（VTR40分）

1985.3.30/31

- 「日本映像民俗学の会」第7回総会を開く
  - 会場 第1日 杉並区立高円寺会館  
第2日 喫茶「グレル」（杉並区松庵）
  - 会員 総数51名 出席者31名（委任状を含む）

作品上映

「蛇祭り」(備中神楽) 北村皆雄  
「鬼剣舞」(岩手県) 森田純  
「久高島・牛年の祭り」久高島映画製作実行委員会  
「若い七福神」(山梨県) 大森康宏  
「クリスマスの日」(神奈川県) 小川克巳  
「阿呆船」 康浩郎  
「富山村の御神楽祭り」(愛知県) 野田真吉

総会議事 司会 北村皆雄

- ①活動報告 野田真吉
- ②会計報告 大塚正之(会計監査 杉原正造 緒方宏子)
- ③85年度活動方針 野田真吉
  - 前年度の活動方針の継続を確認
  - 「ハシの食膳」の全員製作を更に継続すること

研究討論会

テーマ: 柳田国男の「民俗芸能と映像」をめぐって

報告者 野田真吉

参加者 宮田登 野口武徳 富田鉄之助 森田純 吉松安弘  
間宮則夫 康浩郎 岡田一男 北村皆雄

総会終了後、懇親会

- 1985.11.19 ○ 第5回総会以来、監事(会計監査)を勤めてこられた、杉原正造氏が逝去。
- 1986.1.4 ○ 会創立の発起人の一人であり、今日まで終始会のリーダーとして活躍されてきた、野口武徳氏が逝去。
- 1986.1.17 ○ 会員・スールン・ホアスの製作した「鳩間島・聖なる破壊者」(1983年製作 56分)の上映会に参加  
(会場 東京・六本木 国際文化会館)
- 1986.4.5/6 ○ 「日本映像民俗学の会」第8回総会を開く  
会場 日本イタリア京都会館(京都市左京区吉田牛の宮町)  
会員 総数 52名 出席者 28名 委任状 16名  
総会議事 司会 久保田堅市  
①活動報告 野田真吉  
②会計報告 大塚正之(会計監査 緒方宏子)  
③86年度活動方針 野田真吉
  - 会活動の活性化を図って、東京と京都にセンターを設置して独自の活動を行う

東京センター事務局(大塚正之 小川克巳 間宮則夫)  
東京都杉並区成田東 5-8-18 間宮方

京都センター事務局(久保田睦子 康浩郎 久保田堅市)  
京都市左京区吉田牛の宮町 10 久保田方

- 運営委員から、東京センターには野田真吉、北村皆雄が、京都セ

- ンターには大森康宏が加わる
- 会報を年2回発行する
  - 「映像民俗学」第3号の発刊を運営委員会で準備する
  - 会員の共同制作「ハレの食膳」はその後進展を見ないが、もう一年継続してみる
  - 新会員の獲得、会費納入の促進を図る
- ④事務所の移転
- 野口武徳氏逝去にともない、会の事務所を下記に移転する  
 新住所 茨城県新治郡桜村天王台 1-1-1  
 筑波大学歴史人類学系 牛島研究室気付  
 日本映像民俗学の会 (0298) 53-4047
- ⑤役員の改選
- 運営委員 宮田登 牛島巖 大森康宏 森田純  
 野田真吉 北村皆雄
- 監事(会計監査) 緒方宏子 小川克巳
- ⑥講演と作品上映
- 講演
    - 「都市民俗学と映像記録の課題」宮田登
    - 「鬼の話」小松和彦
  - 作品上映
    - 「長龍神事」小川克巳(85年)
    - 「上総掘り」諸岡青人(85年37分)
    - 「テゴを作る」京都精華大学針畑生活資料研究会(85年28分)
    - 「消えた氷屋さん」大森康宏(85年25分)
    - 「宇波西神事」岡田一男(83年30分)
    - 「鳩間島・聖なる破壊者」スールン・ホアス(83年56分)
    - 「大磯の左義長」野田真吉・田中茂(78年20分)
    - \*以上16mmフィルム
    - 「下町におけるコロッケの研究」大西みつぐ(83年20分)
    - 「陀々堂の鬼のはしり」鹿谷勲・安達弘太郎(83年49分)
    - 「下丹生のおこない」河端繁(83年49分)
    - 「下北・大畑の祭り」牛島巖・今村文彦(85年80分)
    - \*以上VTR

- 1986.6.7 ○ 京都センター研究会(会場 イタリア京都会館)  
 上映作品「天下の奇祭・いごもり祭り」中村彰(VTR90分)
- 1986.7.20 ○ 京都センター研究会(会場 京大・楽友会館)  
 上映作品「ゆきははなである・新野の雪まつり」  
 座談会「現代にとって祭りとは」ー 野田真吉氏を」囲んで  
 主催 使い捨て時代を考える会  
 協賛 京都センター
- 1986.8.9 ○ 東京センター研究会(会場 横浜市平山記念レストハウス)  
 「神奈川県民俗映画を観る」  
 上映作品 「箱根の湯立獅子舞」  
 「鳥屋(とや)の獅子舞」  
 「国府祭」  
 「真鶴の船祭り」

(以上、神奈川ニュース映画協会製作)

- 1986.秋 ○ 東北センターの森田純は第1回「映像民俗講座」(岩手県立博物館主催)に講師として参加。東北センターの活動の輪を広げる
- 1987.3.21/22 ○ 「日本映像民俗学の会」第9回総会を開く  
会場 第1日 上伊那郡市民会館(長野県伊那市)  
第2日 伊那公民館会員  
総数51名 出席者17名 委任状22名  
総会議事  
①開会 間宮則夫  
②活動報告と今後の提案 野田真吉  
■東京と京都のセンターが始動し始めた  
■会員の活動成果は各会員の近作にみられること  
■会組織活動は一応の基礎が形成され、各自の課題把握にまつわった議論が出始めてきた  
■会内における映像民俗学のあり方、その方向を討議し続けることが今後の課題である  
■第6回総会で提案された「ハレの食膳」の共同製作は、まだ会の力量が不足していると思われるので、しばらく凍結する  
■東北センターの設立を運営委員の森田純に一任  
③各センターの活動報告  
■東京センター 間宮則夫  
■京都センター 久保田堅市  
④会計報告 大塚正之 (会計監査 緒方宏子 小川克巳)  
⑤会則の変更  
「運営委員は委員会を構成して会務にあたり…」を  
「運営委員は各地域センターの代表を加えて委員会を構成し…」に変更する(総会承認)  
⑥87年度活動方針 野田真吉  
■会の構成が学者、研究者、映像作家、民俗記録映像の利用者等の会員によって成り立っており、この点で会はまさに民衆の生活史の記録の学である民俗学を、民衆の地盤に立ち返らせる重要な要素となっている  
■したがって会発足の当初から続けてきた活動目的を本年も一層発展させるべきである  
■そのために各センターを中心に、会員に向けた研究会、討論成果などの共有化を図って行く
- 作品上映  
「長野の伝統産業」大塚正之 (86年 VTR23分)  
「私の人生—ジプシー・マヌーシュ」大森康宏(77年 VTR76分)「友誼の大陸・ホーチャ族」石塚亮 (86年 VTR30分)  
「友誼の大陸・オロチョン族」石塚亮 (86年 VTR42分)  
「おしゃべりな石・石に刻まれた郷土史」幸寿聡 (86年 VTR20分)  
「ヤップ島集会所落成式」牛島巖 (83年 VTR40分)  
「沖縄」間宮則夫 (59年 16mm40分)

「新野の門松づくり」野田真吉(73年 16mm 6分)  
 「面掛行列」野田真吉(72年 16mm17分)  
 「みそづくり」小川克巳(87年 VTR 5分)  
 「にっぽんの綱引き」北村皆雄(85年 VTR45分)  
 「対馬の成女式」北村皆雄(76年 16mm30分)  
 「冬の世の神々の宴・遠山の霜月祭」野田真吉(70年 16mm42分)  
 講演  
 「伊那谷の民俗」宮田登(会員・筑波大学教授)  
 「妖怪変化の出現する雰囲気・環境諸条件について」小松和彦  
 (会員・大阪大学助教授)

- 1987.7.12 ○ 東京センター研究会(会場 杉並産業商工会館)  
 上映作品  
 「おしゃべりな石」 構成 幸寿聡  
 「時の肖像」 構成 幸寿聡  
 報告 幸寿聡  
 演出の桂俊太郎、幸寿聡の両氏を囲んで討論 参加者 9名
- 1987.秋 ○ 東北センターの森田純が、第2回「映像民俗学講座」(岩手県立博物館主催)に講師として参加
- 1988.3.26/27 ○ 「日本映像民俗学の会」第10回総会を開く  
 会場 劇団「展望」スタジオ(杉並区阿佐ヶ谷)  
 会員 総数 52名 出席者 20名 委任状 21名  
 上映会一般参加者 18名  
 第1日 会員作品の上映  
 「麻布の七不思議」間宮則夫(VTR23分)  
 「浅草・お酉さま」牛島巖、三浦庸子、今村文彦、野沢和之  
 (VTR30分)  
 「天下の奇祭」中村彰 (VTR90分)  
 「宴会」小川克巳 (VTR10分)  
 「京都の師走風景」久保田堅市 (8mm40分)  
 「霜月祭の里」大塚正之 (16mm20分)  
 「会津の民具づくり」諸岡青人 (16mm 33分)  
 「隠岐の田楽」大森康宏 (16mm 27分)  
 「異形異類の面掛行列」野田真吉 (16mm 18分)  
 上映会終了後、会員以外の参加者を含めて懇親会
- 第2日 総会とシンポジウム  
 総会議事 司会 間宮則夫  
 ①活動報告と提案 野田真吉  
 ■10年にして会の活動基盤が固まってきた  
 ■会員の作品が多彩になり、出席者の数も増加している  
 ■各センターの活動も高まり始めてきた  
 ■今年度は会員の映像と民俗についてのエッセイ、感想などを集めてパンフレットを出したい  
 ②各センター報告  
 ■東京センター 間宮則夫

- 京都センター 久保田堅市
- 東北センター 森田純（書面による）
- ③会計報告 大塚正之（会計監査 緒方宏子 小川克巳）
- ④役員の変更
- 運営委員 宮田登 牛島巖 大森康宏 北村皆雄 野田真吉  
久保田堅市 森田純 間宮則夫
- 監事（会計監査）緒方宏子 小川克巳

シンポジウム 司会 野田真吉

■報告

- 「海外の民俗誌映画の状況」大森康宏
- 「日本の大学における映像人類学の状況」牛島巖
- 作品上映と製作報告「大川の鮭漁」牛島巖
- 両報告、作品を中心に討論

- 1988.7.17 ○ 野田真吉作品「くずれる沼・画家 山下菊二」上映会  
主催 日本の悲劇を上映する会  
後援 京都センター
- 1988.11.12 ○ 「周防・三作神楽の夕べ」を、東京センター研究会として見学  
早稲田大学演劇博物館・山口県新南陽市主催  
参加者 8 名（大隈講堂）
- 1988. ○ 仙台市教育委員会文化財課主催で「映像民俗講座」が開かれ、東北センターの森田純が講師として招かれる
- 1989.4.1/2 ○ 「日本映像民俗学の会」第 11 回総会を開く  
会場 日本イタリヤ京都会館（京都市左京区吉田牛の宮町）  
会員 総数 52 名 出席者 23 名 委任状 20 名  
第 1 日 会員作品上映  
「高千穂神楽」大塚正之（VTR25 分）  
「ある日の在日韓国家庭のチュサ（祭祀）」康浩郎（VTR30 分）  
「くる（割る）一木工芸家・中台瑞貞の記録」幸寿聡（VTR60 分）  
「ヤップ島ルモー村の踊り」牛島巖（VTR24 分）  
「葬列一伊豆諸島」牛島巖（VTR14 分）  
「木摺臼と木摺臼を試す」諸岡青人（16mm30 分）  
「虫送り」諸岡青人（16mm16 分）  
「ベベー朽木村針畑の生活記録 No.3」丸谷彰（16mm40 分）  
終了後、懇親会 参加者 20 名  
  
第 2 日 総会とシンポジウム  
総会議事 司会 間宮則夫  
①活動報告 野田真吉
  - 会の構成を見ると、各個人単位で民俗（学）と映像のかかわり合いに関心と注目をもった学者、研究者、映像作者、民俗学の愛好者など、その職能が多様多層になっている
  - 会のこのようなあり方はタテ割の社会体制を超えた、まさにヨコ割の交流とコミュニケーションのユニークな場となっている。上

映作品の諸作にその成果がほの見えてきた

②各センター報告

■京都センター 久保田堅市

■東北センター 森田純

■東京センター 間宮則夫

③会計報告 大塚正之（会計監査 緒方宏子 小川克巳）

④役員の改選

運営委員 宮田登 牛島巖 大森康宏 北村皆雄 野田真吉

久保田堅市 森田純 間宮則夫

監事（会計監査） 緒方宏子 小川克巳

事務局 大塚正之 三浦庸子 小川克巳

シンポジウム 司会 幸寿聡

「フィールドにおける映像の諸活用をめぐって」

■シーケンス・フィルム、その撮影と方法論について 牛島巖

■ミクロネシアのフィールドワークに

ビデオカメラを用いた経験を通して 小松和彦

■朽木村針畑の生活記録の生活を通して 丸谷彰

会員外参加者 12 名

- 1989.6.17 ○ 東京センター研究会（会場 劇団「展望」）  
テーマ「続・フィールドワークにおける映像の活用について」  
報告者 牛島巖 参加者 12 名
- 1989.6.30 ○ 京都センター研究会  
共催 京都精華大学針畑生活資料研究会  
後援 仏教大学四条センター  
「ベベー朽木村針畑の生活記録」「テゴをつくる」 丸谷彰  
参加者約 80 名
- 1989.8.16 ○ 伊那市中条公民館にて、京都センター主催の映画会  
地元の人と交流を図る  
上映作品  
「大磯の左義長」「本牧のお馬流し」「三浦菊名の飴屋踊」  
「世附の百万遍念仏」（以上、野田真吉作品）  
「京菓子」「大文字」「丹後の藤織り」
- 1989.11.18 ○ 「ベベー朽木村針畑の生活記録」の上映会  
主催 野洲町婦人問題を考える会  
協力 京都センター  
（滋賀県近江八幡市県立婦人センター）
- 1189.12.8/9 ○ 「第 1 回新しい映像の可能性を探る '89」研究会  
主催 京都精華大学 AV センター、同大学針畑生活資料研究会  
後援 京都センター  
上映作品  
「花の迷宮」松川八洲雄  
「ベベー朽木村針畑の生活記録」丸谷彰



「ジョーの詩が聞こえる」金井勝  
「イブ・クライン」野田真吉  
「相模幻野考」桑名平治  
「風の積分」鈴木志郎康  
講師 野田真吉

1990.3.31/4.1

- 「日本映像民俗学の会」第12回総会を開く  
会場 伊那市中条公民館（伊那市箕輪中条）  
会員 総数54名 出席者22名 委任状24名  
新人会員 松島岳生（日本映画テレビ技術協会機関紙編集）  
中野博枝（京都精華大学学生）  
大村敬一（早稲田大学院考古学 博士課程）  
松本清人（教諭）
- 第1日 会員作品上映 司会 間宮則夫  
「新野の門松づくり」野田真吉（16mm8分）  
「所沢飛白を復元する」幸寿聡（VTR50分）  
「イヌイットとアザラシ」大村敬一（VTR26分）  
「hand made—たたみづくり」中野博枝（VTR10分）  
「音の伝承誌」村山道宣（サウンド構成）  
「河内の盆踊り・音頭取り桜川唯丸」吉田成己（8mm）  
「桜の満開の下で」久保田堅市（8mm）  
「ヤクルトです」小川克巳（8mm6分）  
「神のおる里—柁尾神楽」巨純吉（VTR45分）  
「霜月祭の里（下伊那郡上村）」大塚正之（VTR20分）  
「別神楽—韓国東海岸のムータン」北村皆雄（VTR53分）  
「神津島子神輿・鯉釣り神事」牛島巖（VTR29分）  
「サンヤマサのカミオロシー津軽イタコ」牛島巖（VTR28分）  
「ベベー朽木村針畑の生活記録③」丸谷彰（16mm）

終了後、懇親会

第2日 総会

①活動報告と提言 野田真吉

- 今次総会は会員の出品作品がかつてなく多く、出品者の範囲が広がり、しかも各自の目指している対象（広義の民俗現象—民衆の生活史）への映像表現の活用による、各人各様の独自のアプローチが、作品として内容・形式ともに多様多岐にわたって提示された
- 参加者全員による、各出品作品についての自由な感想、討論、批評の交流が行われ、その余波が散会後にもなお続けられた—これは会の活力が次第に湧き出つつある証明といえよう
- 映像の記録的特質を活用して、民俗学のフィールドワークに、あるいは教育教材などに利用されていることと、民俗の消長を記録することで歴史の現時点に関わっている自己表現をすることは、表現対象と表現媒体の活用に関してのみ見れば同じである。だが、活用の目的自体は各々異なっていると同時に、各々の表現形態（表現方法）を異にすると思う。その点を作品に接する場合混同し、独善的排他的にならないで、両者の差異を認めながら観ること、討議することが大切ではなかろうか

②各センター報告

京都センター 久保田堅市  
東北センター 森田純（書面にて）  
東京センター 間宮則夫

③会計報告 大塚正之（会計監査 緒方宏子 小川克巳）

- 1990.11.10/11 ○ 東北「映像民俗」の会：東北センター研究会  
会場 岩手県平泉町毛越寺宿坊  
森田純司会のもとに二日間にわたって作品鑑賞、討論、情報交換が行われた  
地元参加者の他、東京から牛島巖（他、筑波大生1名）、巨純吉、諸岡青人、間宮則夫が、京都から久保田堅市が参加。東京、京都以外で初めて3地域の会員が会合を持つことができた
- 1990.12.2 ○ 東京センター研究会  
会場 渋谷区勤労福祉会館  
上映作品  
「白老コタンのアイヌの生活」八田三郎（大正14年30分）  
「イヨマンデ」N.G.マンロー（昭和初年28分）  
「草原バルガ」芥川光蔵（昭和11年20分）  
「娘々廟会」芥川光蔵（昭和15年20分）  
講師 「アイヌの言語と民俗」片山龍峯（映像作家）  
「芥川光蔵と満鉄映画」宮本次雄（日本視聴覚教育協会）
- 1991.1.26 ○ 東京センター研究会  
会場 文化女子大学小平キャンパス  
テーマ「世界のシャーマン」  
ブッシュマン、ベネズエラのヤノマモ族、バリ島のシャーマンをとらえた民族学フィルムを上映  
報告者 牛島巖  
  
上映作品  
N/un Tchai :The Ceremonial Dance of the !Kung Bushmen (19分)  
John MARSHALL 1966  
  
Hagical Death (28分) ベネゼエラのヤノマモ族  
Napoleon CHAGNON 1971  
  
A Balinese Trance Séance (30分) インドネシア・バリ島  
Tim ASCH, Linda CONNOR & Patsy ASCH 1980  
  
Jero Tapacan :Storys in the Life of a Balinese Healer (25分)  
Tim ASCH, Linda CONNOR & Patsy ASCH 1983
- 1991.3.30/31 ○ 「日本映像民俗学の会」第13回総会を開く  
会場 劇団「展望」スタジオ  
会員 総数52名 出席者24名 委任状18名  
新入会員 高橋芽久美（京都精華大学美術学部学生）  
  
第1日

作品上映 司会 間宮則夫

「初詣の人々」間宮則夫 (VTR17分)

「家をつくる」小川克巳 (8mm 15分)

「黒石寺蘇民祭」緒方宏子・三浦庸子・大塚正之・小川克巳(8mm33分)

「病根を取るーピュマ族の対邪術儀礼」蛸島直 (VTR25分)

「場取り」牛島巖 (VTR11分)

「ベテル・ナッツ」巨純吉 (VTR10分)

「諏訪の寒天作り」松本清人 (8mmVTR10分)

「豊・職人の手」杉山貴美 高橋芽久美 (VTR12分)

「木地に生きる・木素地師梅谷正吉の技法」高科英昭 (VTR60分)

「土沢山伏神楽」森田純 (VTR20分)

終了後、懇親会

第2日 総会と講演・作品上映

総会議事 司会 野田真吉

①活動報告と提言 野田真吉

■90年度の大きな成果の一つは東北センターにおける森田純代表の活動による、第1回研究集会の開催であろう

■会員出品作品数の増加と質的向上が見られた。とくに蛸島、松本、高橋、高科の新しい会員の出品は、会の中に清新な活性をもたらした

■創立以来の一つの目標であった、同一テーマをもった共同制作を検討したいと思っている。会員諸氏意見の提出を待ち、成案を作る予定

■民具(民俗)博物館設立について、会として働きかけだできないかー諸岡青人提案会として運動を起こす事は、現時点では力量不足でできないが、会員個々が対処して行くことはできるし、また会員個々の積み上げの中から発展的な展開を期待すべきーとの意見が集約された

②各センター報告

東京センター 間宮則夫

東北センター 森田純

京都センター 久保田堅市(書面報告)

③会計報告 大塚正之(会計監査 緒方宏子 小川克巳)

④役員の改選

運営委員 野田真吉 宮田登 牛島巖 大森康宏 森田純

久保田堅市 北村皆雄 間宮則夫

幹事(会計監査)緒方宏子 小川克巳

講演 大森康宏(国立民族博物館助教授)

「民族誌映画の現在の諸問題について」

作品「リンゴとバイオリン」大森康宏 (16mm20分)

「ジョケット・ブンブン」大森康宏 (16mm30分)

会員作品上映

「田村ばやし」幸寿聡 (VTR20分)

「草鞋づくり・ごんぞうわらじ編」丸谷彰 (8mm24分)

「三浦菊名の飴屋踊」野田真吉 (16mm20分)

「釜(うけ)」諸岡青人 (16mm30分)

1991.11.28

- 京都センター研究会  
会場 京都精華大学・春秋館（京都市左京区岩倉）  
参加者 約 60 名（会員・一般市民・学生）  
上映作品  
「生者と死者のかよい路—新野の盆おどり・神送りの行事」  
野田真吉（16mm36分）  
講師 野田真吉

1992.3.28/29

- 「日本映像民俗学の会」第 14 回総会を開く  
会場 第 1 日 折山旅館（長野県下伊那郡阿南町新野）  
第 2 日 農村文化伝承センター（同上）  
会員 総数 53 名 出席者 23 名 委任状 23 名（送信未着 14 名）  
総会議事  
①第 1 日  
会員 VTR 作品上映 司会 間宮則夫  
「生成—加藤阿佐子の記録」大村敬一（25 分）  
「街中の社にて」間宮則夫（46 分）  
「スリガオ市のフェスタ」牛島巖（34 分）  
「ティナパワンを呼び戻す—台湾ピュマ族の治病儀礼」  
蛸島直（30 分）  
「ヒマラヤ—娼婦になった女神たち」  
制作 北村皆雄 監督 弘理子（50 分）  
「埴谷の祭と芸能」諸岡青人（55 分・オリジナルは 16mm）  
②活動報告と提言 報告 野田真吉  
■前年度の各地域センターの自主活動はあまりはかばかしくな  
った。だが、今総会に寄せられた会員の諸作品や通信文などを見  
ると、各位の立場でそれぞれの分野で活躍されている事が分か  
る。その成果はいづれ今後の総会屋各センターの研究会に見られ  
るだろうと思う。ともかく、会の目的達成には会内外に幾多の課  
題を内蔵し、その解決に向かって各会員が試行錯誤の積重ね同時  
に、相互批判、相互交流を続けるしかないと思う。要するに、会  
の前進は目先の時流に惑わず、既成の概念にとらわれず、根気よ  
く自問をかけるしかない、長いジグザグの道程を辿ること以外に  
ないだろう。  
■以上のような事は歴史の消長文化の創生過程に見られる事で、ご  
存知の通りである。そうした観点から、本会も各センターで積極  
的に研究会や上映会などを適宜開き、続けて行くことが肝要であ  
ろう。そのことは会員の研究とともに交流、更に新しい会員を導  
入し、会の活性を促す契機をもたらす。来期は空念仏に終わらな  
いように、皆さんとともに一層努力したい。
- ③各センター報告  
東京センター 間宮則夫  
京都センター 久保田堅市  
（東北センター報告は未着）
- ④会計報告 大塚正之（会計監査 緒方宏子 小川克巳）
- ⑤会員 16mm フィルム上映 司会 北村皆雄

「長龍神事」小川克巳（20分）  
「ふるさと東大和—くらしとまつりの記録」幸寿聡（45分）  
「生者と死者のかよい路—新野の盆おどり・神送りの行事」  
野田真吉（36分）  
「大磯の左義長」野田真吉（20分）

1992.9.26

- 東京センター研究会  
会場 劇団「展望」スタジオ  
参加者 16名（会員10名 非会員6名）  
テーマ 都市の民俗  
司会 牛島巖 報告者 幸寿聡  
上映作品  
「足立の記憶・北千住かいわい」（VTR84分）  
幸寿聡 高橋慎二  
「浅草・酉の市」（VTR35分）  
牛島巖 北村皆雄 三浦庸子 今村文彦 野沢和之

1992.12.5

- 京都センターの多比良建夫は「'92 人権週間」にむけて、同和問題啓発映画「Cherry blossom チェリーブラッサム」（42分）を制作。読売テレビから放映。

1992.12.19

- 東京センター研究会  
会場 劇団「展望」スタジオ  
参加者 26名（会員13名 非会員13名）  
テーマ 中国のドキュメンタリー  
上映作品  
「生の狂歓」（雲南省ハニ族の祭日の記録・45分）  
雲南省社会科学院 制作  
「チベット大祈願」（ラマ教儀式の記録・60分）  
李 纓・陳 真 作品  
報告者 李 纓（映像作家・日中映像人類学会）  
司会 北村皆雄

1992.12.30

- 東北センターからの報告  
92年に完成したもの、製作中のものは次の通り
  - ①岩手県文化財振興事業団企画の映像記録、6年目の今年は県内種ね市町の「滝沢鶏舞」と、同じく山田町の「境田虎舞」の2団体をとりあげ製作中。93年3月完成予定。
  - ②岩手県岩泉町教育委員会企画の郷土芸能の映像記録では、同町内の「長田剣舞」と「救沢剣舞」の2団体を取材中。93年の盆行事の撮影を待って完成の予定。
  - ③岩手県東山町教育委員会企画の同町内の民俗芸能の映像記録では、神楽、鹿踊、獅子舞など、それぞれ現在上演可能な全項目を収録。92年3月完成予定。
  - ④岩手県前沢町教育委員会企画の同町の民俗芸能と民俗行事の映像記録では、神楽1団体、えびす舞1団体などを取材予定。
  - ⑤岩手県浄法町教育委員会企画の「漆の記録」は91年に始まり93

年に完成予定。今年は「漆掻き各種」と「柿渋作り」などを取材。  
⑥福島県山都町「そば資料館」の展示ビデオ制作中。蕎麦に関する同町の民俗、飯豊信仰の行事などを取材。第1期分は93年3月完成予定。

#### 製作現場での実感

岩手県の民俗芸能は鹿踊、剣舞など十数種、900団体に上るとされていますが、しっかりと映像記録されているのは何パーセントか、名称しか知られていない芸能があちこちの山陰、森陰にたくさんあります。その一つが種市町の滝沢鶏舞。

鶏舞はふつうトリマイと呼び、神楽の式舞の一種なのですが、種市町では珍しいことにこれをケイマイと呼び、踊りの形もトリマイとは随分違ったものです。刀を持ち、勇壮に踊るところを見ると、神楽から派生したものかと思われそうですが、しかし念仏を唱えたり、合掌するふうな所作や、伝統的に演じられてきた場が寺で、盆供養の芸能とされてきたこと、「墓踊り」「庭踊り」という演目があることなど、明らかに念仏踊り系である事を示しています。岩手には剣舞（ケンバイ）という念仏踊りの風流化した芸能があり、内容から見て、またケイマイとケンバイという語呂からしても同じものかも知れません。

さらには「七つ舞」という芸能があり、これも神楽から派生したと伝えられていますが、いずれも根っこは神楽で、そこからさまざまに変化してきたものなのでしょう。つまり、自然神信仰に仏教が結びついて形成されてきた私たちの民俗のありようが、これらの芸能の姿に焼付いていることを実感します。

芸能大会やテレビ番組など、民俗芸能が舞台上で演じられることが普通となりましたが、嬉しいことにこの滝沢鶏舞はしっかりした盆行事として生き続けていました。ふだんは人の姿も見られないような山村なのに、お盆となればどっと帰省する人たちでお寺は大賑わい。

囃しを先頭に鶏舞の一行が墓地に繰込むと、不意に時間が飛び去って懐かしい時代がよみがえったかのよう。帰省した人たちの会話もいつの間にか土地言葉に戻っているのが微笑ましい。鶏舞の踊りと共に、墓参りの人々も自然に手を合わせ頭を垂れる。このような盆行事や鎮守の祭り、田舎なら当然と思われるかも知れませんが、田舎といえども近年このような光景に出会うことは稀になりました。イベントばかりが盛んになり、人々が自然に心を通わせる民俗行事は、もう絶滅寸前なのではないでしょうか。ならばこそ一層、映像記録の役割の重さを痛感しないではられません。

以上

「日本映像民俗学の会」の15年  
1992年12月31日 発行  
編集者 間宮則夫・吉田成己  
発行所 日本映像民俗学の会事務局  
〒166 東京都杉並区成田西 1-2-8 野田方  
TEL 03 (3311) 0493

